

2014 図書館便り

第五巻 第二号

発行日 2014年7月25日

巻頭言

館長 澤田篤子

目次:

巻頭言	1
私の推薦図書 西釋 英里香先生	2
図書館ゼミナール： 『CDの分類について』	3
図書館員による推薦図書	6
図書館からのお知らせ	8

情報化が加速する現在、本学図書館でも学術情報検索データベース等の新しいサービスの提供に務めています。一方で、人と人との繋がりによる利用法も尊重し、親しみやすく使いやすく、そして人が集える図書館を目指して取り組んで参りました。

その一つの図書館サポーター制度は発足以来3年目となりますが、サポーターの存在がわかりにくいという声もあり、カウンターの前にサポーター専用のコーナーを設けました。サポーターは事前研修を受けた上、日々自己啓発をしつつ任務に携わり、また利用者とのかわりからサポーター自身もさらに成長していきます。利用者の声は図書館のさらなる改善にも繋がるものですので、些細なことでもどうぞ相談してみてください。

また図書館利用者が仲間と共に主体的に学習する場として、日本でも浸透してきたラーニング・コモンズ Learning Commons(共に学ぶ共有の場)の考え方を本図書館でも取り入れ、昨年秋より2階にグループ学習室を設けました。あまり知られていないようですが、授業関連や自発的な活動の企画・相談などに積極的にご活用ください。

ところで、来年夏、図書館の後方に新校舎が完成します。校舎新築工事の車両通行に対する安全確保のため、只今、図書館付近の動線が規制されています。しばらくご不便をおかけしますが、引き続きご利用くださいますよう、皆様のご来館をおまちしております。

<私の推薦図書>

【西釋 英里香先生(音楽学部、音楽学コース)】

【図書】

書名：『音楽の聴き方―聴く型と趣味を語る言葉』(中公新書)

著者：岡田暁生

出版：中央公論新社、2009年

定価：780円(税別)

ISBN-13: 978-4121020093

本学音楽学部の学生の皆さんは、作曲や演奏を通して自ら生み出した音楽を聴き手に届ける立場にありますが、そのような音楽の作り手も、音楽をどのように聴くべきかという問題に常に直面せざるを得ないでしょう。それは、音楽の聴取体験こそ音楽創造の基盤となるからです。

本書は、最後に「アマチュアの権利」という章が置かれていることからみても、プロになることをめざす音楽家に向けられた本ではないかもしれません。しかし、自分はどのように音楽(おもに西洋の芸術音楽)を聴いているのかを省みるきっかけを与えてくれます。そして、音楽を聴いた感動や感想を他人に伝えて分かち合うために必要なこと、すなわち、音楽を語るための言葉を探ること、意味をもった言語として音楽を読み解くこと、自分が

立つ歴史的・文化的文脈を意識しながら音楽を聴くことについて詳しく説明されています。

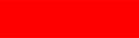
たとえば、第二章では、音楽家たちが使う言葉は、それを耳にした人間の身体感覚に訴えかける言葉(わざ言語)であることが多いと述べられています。このような記述をふまえたうえで、日々のレッスンやリハーサルで、先生がたが語りかけてくださる言葉を思いおこしてみるのも、面白いのではないのでしょうか。

本書では難しい思想も語られており、読むのがやっかいかもしれません。その場合は、音楽の聴き方のマニュアルとなっている「おわりに」から読むことをおすすめします。ここで聴き方のコツをおさえたうえで、もう一度本文に戻ってみてください。

図書館ゼミナール：『CDの分類について』

図書館内のCDは、ジャンル毎に分類し、色分けされています。

主な分類(色)は以下の通りです。

	青 交響曲
	緑 管弦楽曲 →吹奏楽、金管バンド、ファンファーレ含む
	赤 協奏曲
	茶 室内楽曲 →室内楽及び鍵盤以外のソロ
	黄緑 鍵盤楽曲(ピアノ等)
	灰色 歌劇、ミュージカル
	黄色 声楽曲 →合唱を含む

	黒 邦楽、雅楽、民族音楽
	紫 ジャズ(洋楽、邦楽とも)
	ピンク J-POP
	金色 Rock、Pops
	蛍光黄緑 R&B、Hiphop
	蛍光黄 ワールドミュージック
	オレンジ 全集

図書館ゼミナール：『CDの分類について』 つづき

- なお、本学教員及び卒業生のCDは、らせん階段下の、
回転式書架(通称“くるくる”)にあります。(赤の丸ラベルあり)
- 新着CDについては、カウンター向かって左の書架に
あります(原則として入荷3カ月以内のもの)
(黄色の丸ラベルあり)
- また、学園主催の演奏会、卒業試験などの公開試験、ゼミの演奏
会などについては、シールは貼られてなく、年度別にまとめて配架
しています。
 - 最近1、2年のCDはカウンター向かって左の書架
 - それ以外は、楽譜室奥の“邦楽CD”の隣にあります。
- 『のだめ』、『ディズニー』、『ジブリ』については、ピンクのシールが
貼っており、それぞれまとめて配架されています。
 - 楽譜室一番奥の書架

【作曲家が2人以上の場合は・・・】

・各ジャンル内では、作曲家毎にCDが並べられています。
1枚のCDに2人以上の作曲家の曲が入っている場合は、

- ①2人の場合、最初に収録されている作曲家で分類しています
- ②3人以上の場合、もう一段細かいジャンル別、もしくは楽器編成別で分類されています。(上のピンクシールに表示)

例)

歌	
伊	→大分類: 声楽のうち、イタリア歌曲
2台	
	→大分類: 鍵盤(ピアノ) 楽曲のうち、2台ピアノ

<CDがあまり出されていない作家は・・・>

・CDが1、2枚しかだされていない作家については、アルファベット順にまとめて並べています。

例えば、交響曲のジャンルで、Aで始まる作曲家のCDについては、

A	
	というところにまとめて並べています。

<その他では・・・>

・利用者から問い合わせが多いジャンルについては、なるべくまとめて並べるようにしています。例えば、最近では・・・

- ボサノヴァ
- タンゴ という分類を設定しました。

・CDの分類について、何か不明な点がございましたら、
図書館職員、もしくは図書館サポーターにご質問ください。

【図書館員からの推薦コーナー(図書)】

図書】

書名：『「仕事が速い人」と「仕事が遅い人」の習慣』

著者：山本憲明

出版：明日香出版社 2013年

定価：1,400円（税別）

ISBN：978-4-7569-1583-2

バブル崩壊直後の就職氷河期に1社だけ内定。しかし入社早々、自分には合わないと感じた筆者は、独立に必要な資格取得のため、仕事のかたわら、学校へと通うことを決意。それ以来、仕事を早く済ませ、定時退社するための算段を日々考え続け、まとめたのが本書である。内容は“仕事が速い人は〇〇、仕事が遅い人は△△”という、対照的、かつ短くて読みやすい構成となっている。本書はベストセラーとなっているが、“速く読める本は売れる”のかもしれない。

ところで、この対照的な表現、筆者も書いているが「ん？逆では？」と、違和感を覚える章が少なからずある。いわく、

「仕事が速い人はなかなかとりかからず、仕事が遅い人は、すぐにとりかかる」・・・昔の上司の口癖は「早く着手しろ！」だったが・・・

「仕事が速い人は無駄なことをやり、仕事が遅い人は無駄なことをしない」・・・はて、無駄を排することが、ビジネスの要諦では？・・・

これらは逆説的な指摘で、要は世間的な常識にとらわれることなく、自分でものを考え、判断すべきという主張につながる。

すなわち本書はノウハウ本ではなく、「自分で考えなさい」というごく当然のセオリーを、さまざまな視点から指摘しているのである。

もっとも「仕事が速い人は人のいうことを聞かず、仕事が遅い人は素直によく聞く」そうで、この本のいうことも気にしなくていいのかも。

さて皆さん、「よし、あつという間に読んだぞ、明日からは仕事が一段と速くなるに違いない。よっしゃー、自分も勝ち組だ！」と安心してはいけません。実は一番大事なことは、「あとがき」に書いてあります。

是非、隅々まで読み、考え、そして実行してください。

【図書館員からの推薦コーナー(図書)】

図書】

書名：『ブラバンキッズ・ラブソディー』

著者：石川高子

出版：三五館 2009年

定価：1,400円(税別)

ISBN：978-4-88320-459-5

本書は1991年初版だが、多くの要望に応え2009年に復刊された。

予算がなく、まともな楽器が揃えられない。部員の遅刻・欠席も多く、まとまりがない公立高校の吹奏楽部。そんな普通のブラバンが、一人の指導者に巡り合い、紆余曲折を経ながら、まさかまさかの普門館へ。高校は神奈川県立野庭高校、指導者は近隣で音楽教室を主宰していた中澤忠雄。もちろん、普門館にたどり着くまでの道のりは一本調子ではない。厳しい指導への反発、不協和音、退部騒ぎ・・・空中分解寸前だ。業を煮やした中澤が、合宿の途中で帰ってしまうという事件も起きる。最後は“うまくなりたい、ここでやめたら後悔する”という生徒の思いと、“生徒が喜ぶ顔を見たい”という中澤の執念がつなぎとめる。

このストーリーは、組織活性化のケーススタディとして読むこともできる。まずは明確な目標設定とその共有化、一体感を醸成するための仕掛け、明確かつ具体的な手段の提示、パート毎のスキルアップ(TQCに類似)。そして最も重要なのは、“音楽はハートだ”という理念を繰り返し説いたこと。つまり、目指すものは「上手な演奏」ではない、という信念を貫いたことだ。そうでなければ、個々人の完成度は今一つ(失礼！)であっても、合奏になると一段上のレベルにいき、コンクールの大舞台ではさらに大きくステップアップする、ということは通常あり得ない。大仰な言い方をすると、“事業領域(土俵)”をちょっとずらした戦略。横綱との対戦で“がっぷり四つ”を避け、前みつをとって頭をつけた注文相撲のようなものだ。

でもそれはコンクールという枠内で、結果的にそうなったのであって、音楽を通じた教育としては、ど真ん中の正攻法といえるだろう。

中澤いわく「自分が100教えるとしたら、音楽が占める割合は10くらい」、逆にいうと、良い演奏をしたかったら、ハートを磨けということだ。

さて、学生の皆さん、最初はろくに音も出せず、必死の形相で楽器に息を吹き込むブラバンキッズたち、皆さんの身近にもきつといることでしょう。

その子どもたちに是非、音楽のすごさと楽しさを教えてあげてください。

(敬称略)

【図書館からのお知らせ】

<ベーレンライター講演会：9月22日（月）15：30より開催！>

- 今年もベーレンライター社の原典版編集者による講演会を、9月22日（月）15：30から、法人本部・大会議室にて開催致します。（17時終了予定）
今年のテーマは『オーケストラ譜の校訂について』の予定です。
楽譜制作に関するお話を現役編集者から聞くことができる貴重な機会ですので、多くの皆さんの参加をお待ちしております。
当日はベーレンライター社の概要紹介もあります。
通訳付きですので、気軽に参加してください。

<図書館管理システムを更新します>

—8月8日17時～8月22日は資料検索システムが使用できません—

- 図書館では8月に、図書館管理システム(Limedio)を更新致します。
これは、経年劣化による故障等を回避すると同時に、利便性向上、一層の業務効率化を実現するため、定期的実施している作業です。
交換作業は夏期休暇を中心に行いますが、このため8月8日17時から8月22日までは、インターネット上の資料検索システム(OPAC)はご利用できません。ご不便をおかけしますが、上記趣旨を鑑み、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

<Finale をバージョンアップします>

- 図書館内のパソコンにインストールされている楽譜制作ソフトを Finale 2014にバージョンアップします。作業は8月中に実施の予定で、9月からは新しいバージョンのフィナーレがご利用可能です。

発行： 洗足学園音楽大学附属図書館
洗足こども短期大学附属図書館
発行日：2014年7月25日